WASON
HQ
1104
J74+

THE
WOMAN'S MAGAZINE.

Jan. 27
1888
no. 94

女學雜誌

明治二十一年一月廿八日刊行

第九十四號

每土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送稅

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 94, JANUARY 28TH, 1888.

第九十四號

EDITORIAL:— Our Views in regard to the woman's Sphere and Education.

LEADING ARTICLES:— Senator Kato on Practical Morality (II); Woman's Education, by Mr. M. Ukawa.

MISCELLANIES:— Writer and Matrimony; A few interesting Anecdotes about the Japanese Poem; Fashions in Hats from 1800 to 1887, illustrated.

NOVELS:— "Last Days of Pompeii." (Flower girl); White Lotus : No. III.

BIOGRAPHIES:— Madame Elizabeth: No. II, by Miss. M. Hasegawa.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

●社説　吾人の意見を明かにす

●論説　品行論(加藤弘之)○女子の教育(宇川盛三郎)

●叢話　文人記者の伉儷○和歌の德を實用したる佳話○八十七年間英國婦人帽子の變遷

●小説　奔彪榮華の夢(花賣娘の三)○白蓮談(吉田魁と鈴木彈正)

●佳傳　マダム、イリサベスの傳(其二)

●寄書　文苑(鈴木弘恭撰)

●新報　二十件

●珊瑚の珠　(第五十回)

○フランセス、ターナー曰く歐洲の四大國イングランド、アウストリア、ロシア、スペインには紀元千五百年來合して六十三人の帝王ありき(幼兒は除く)此中五十人は男に居まして十三人は女性にて座はせり而して其中治績の尤も赫々たるは曰く女王エリサベス曰くヲリーバクロムエル曰くスペインのイサベルラ一世曰くチヤーレス五世曰くマリアセラサ曰くピーターゼグレート曰くカゼリン二世即はち之を分割にして比較すれば男性六割女性三割なり歷史上婦女子が政治上に英名を殘したる蓋し尠しとすべからず。

○ケーテ、バイアム、マーテン曰く凡そ或社會に於ける女子の地位の高低何如んを測らんとには之を既婚婦に求るよりは先づ未嫁の女子の地位に付て考ふるを宜しとす。

○清盛の室晴子曰くよろづ我よりかみこがたにはつゝしまねどもおやまより少し我より品くだりたる人の前よはおやしの言葉までも心づかひすべきものにこそ。

○世に云ふ小町が雨乞の歌はいづれの集に有るにやいまだ見あたらず雨乞の小町家集には　(古事談)

千早振神も見まさば立さはぎ天のとかはのひくら開玉え

女學雜誌第九十四號
明治二十一年一月廿八日發兌

社説

○吾人の意見を明かにす

前號の女學雜誌發兌の夕べ余は當日の課業を畢りて獨り學齋に入る机に倚つて靜かに攻究するとき其樂しみ無限なり遂に日全く暮れて新月の出でたるを知らず乍ち戶を叩くものあるを聽て之を顧みれば月光暗澹人影僅かに地に在り則はち出で丶之を延き座を分つて相談ずれば

客曰く。今日の女學雜誌を一讀するに社説の欄に「姉妹の爲に慷歎す」と云へる一篇を掲げられたり御慷歎の程ハ殆んど察し入る生も亦た平生同樣の事に恨みを懷き居る者なれば一夕の會話を得て緩々賢慮をも伺ひ度推參せり。

余曰く。眞に光來を謝す不肖身を忘れて夙に自から任ずる所ろ有之ために時々萬斛の感に胸を叩くの折も御座候則はち僅かに之を筆端に洩らして讀者に訴ふるのみ君等の覽を辱うするハ實に謝すべきことに候。

客曰く。當今女子敎育を必要とする趣きハ最早反對の議論も之れ無く殆んど世上の輿論として之を贊成いたす折柄向後

は何如なる教育か即ち女子の性質に適當すべきやと申すと尤も研究を要すべき點に候半之につきてお考への程伺ひ度候。

余。扨ても此事ゝ候當今教育の事に就ては吾も人も殆んど盲目同前にて何れも確たる意見とてハ無之候が先づ男子の教育に付ては多少の經驗も有之隨分相應の意見ある者も御座候が女子教育の事ゝ付てハ世人惣躰に不案内にて之を何如に致して宜しきや頓と分り不申此迄は只だ暴りに慷慨悲憤して騒ぎ立て女に學問をさせねバ成らぬとのみ申して相濟たることなれども此よりは即ち何如に學問を爲せたらバ宜しきやと申す問題にて只今も仰の如く甚だ現今必要の論點に候が何分誰もく未だ經驗の無きことゆえ確とした意見も相立たず日に日に新なる女學校は續々として各地方に出現すれども之と云ふ一定の女子教育原理の世に知られざるより實以て歎息に堪へざるようの景況も自然に起生いたすの道理甚だ殘念に存ずる所に候。

客。左れば先づ御意見を伺ひ度と思ふ所以にて候世上にて風評いたすは御社は只管ら女丈夫を造り出し男女同權の基ひを固め米國に行るゝ如き活潑の女風を流行らせんとの御主意なるよし承はる實左樣の事に候や。

余。之は甚だ迷惑に存じ候世上愛顧の諸君中吾々社中の者の意見を誤認ありて往々仰の如き事柄を望みとするものゝ樣にお考への方も有之由し兼て殘念に存じ居候得バお問ひに應じ大畧吾々の意見を明らかに致し度候、

元來吾々は世の所謂る男女同權論あるものに甚だ不同意を有つものに候えば女學雜誌發刊の初めの頃ろ毎々其理由を辨じ置たり、左りとて又た當今の日本の女子教育論者が主張せらるゝ女子本分の議論には多く不滿足を感じ居候ゆえ近來に至るまで時々慷慨歎息の文章をも作り候次第必竟双方に荷擔いたさず少さか自信する所を確守候より一方には過激ある女權論者と見誤まられ一方には温和過る用心者と思込まれて獨り中立いたし居る儀に候。然し吾々社中の確信仕る所ろは下の如し、「彼の尤も女子をヒイキにせらるゝ一種の學者達は進化論に據つて斯樣に述べらる曰く今の女は成程智慧も少なし腦力も薄し考への淺墓なる膽力の弱きと中々男子に及ぶ可らず然し之は數千百年來女を壓制束縛して毫しも自由を與へざるのみか之を教育して學問智慧を與ふる等の事を一切爲さゝりしが故の決果なり即ち從

來男子に其智慧力量を發達せしむべき方法を與へて女には全く之を與へざりしが故に最初は双方左程の相違なかりしものが包圍事情(エンバイロメント)の異るに由て此の如く爲れり故に此後とても若し女子に男と同樣の教育を與へなば即ち亦男子と同樣に發達し男に出來る丈けの事は決して女にも出來がたきと無きに至るべしと論ず左ば女子大學の設立を要し婦人參政の權を要る類の意見も之が爲めに起るとにてミル氏に從ふ論者達は即はち此一種に屬す先づ此を男女同樣論者と假りに唱へ申さん。然るに之とは反對に立る當今日本の女子教育論者の或る人々等は重寶主義に據つて斯樣に述べらる曰く女は感情多きものなり美術の志想に富めるものなり想像多くして智力少なきものなり家を守り内を修め外には餘り出づべからざるものなり故に學門を爲せば文學に限るべし藝術を學ばゞ音樂繪畵の如き美術を專ばらとすべし先づ尤も大切なるは家内の衞生經濟にして差當り子を育て夫に仕へ料理の鹽梅を能くし衣服四季せの裁縫を爲すが如き心得なかる可らず故に女子教育は之を目的として其外を望むべからず假令ひ偶ま高等の學術を修めんとする篤志の女子ありとも之は一種飛離れたる行過物にして眞正の女德を履むものにあらず好し彼等何如に勉學すとも迚も男子に及ぶべきにあらず寧ろ其樣なる高等の志は之を止めて只だ平易普通一と通りの修業を畢らば則ち早く人に嫁して一家を修るものとなるべしと論ず左れば女子大學を不必要とし婦人職業の事を餘りに大切と思はず多く外に出でゝ活潑に運動するを以て多少優美の德を損する樣に思ふ所ろの意見も之が爲に起るとにて歐米の交際社會に行はるゝ女子教育論及び我國現今の世話燒、温厚君子、女學熱心の紳士連中に行はるゝ議論は大抵此の仲間に屬す先づ此を世話論者と假りに唱へ申さん。然るに吾々は此の兩種の議論を半ばは贊成して半ばは贊成せず丁度其半分に同意して他の半分に不同意を有するが故に勢ひ止を得ず中間に立つて自から信ずる所ろを守ると也、思ふに今の女子は世話論者の云ふ如く確かに感情に富み美術の志想多く而して智力發明力の薄弱なるに相違なし然し之は幾分か、、は多年の習慣と教育とに由つて造り成したる變性なるが故に本來女たるものは永劫斯の如くなるべしとは云はれず現今の婦女子は斯々の如くなれば即はち到底高等の學術を修めしむるに堪ゆ可らずと云ふは猶ほ彼の奴隷を見て之を普通の人間の如

く取扱ふことを得ずと云ふが如し眞に人情を知るの議論とハ見る可らず故に吾々は世話論者の如く只管ら現今の女の形況を見て之を本然の女の性質なりと認め之に由て女子教育の地歩を定めんとするにハ全く同意致しがたし、然らば女は從來の壓制束縛の爲めに遂に止を得ず今日の如き變性をば現はすこと成りたれ若し始めより男子と同樣に取扱ひしあらば則はち亦同樣に發達せしとなるべし故に向後男子と同樣の敎育を施さんには則はち亦た男子と優劣なく何事をも爲し得べきやと云ふに此の議論も半ばは理に適ひて半ばは道に違へり一言するに此の如き過激なる進化論者は開闢以來男女の間だに一箇の大ひなる不同の點あることを忘れたる者也蓋し男女と云へる兩性の判然と分れたるより以來は懷胎分娩の一事女に限りて男子に決して之れなきもの也既に此の一事の相違ありし以上は從來よし何如ほどの手段に由て男女を同樣の圍包事情に置き雙方均一の敎育を施し得たりとするも今日に至つて決して同樣の性質を所有するものとハ爲る可らず故に向後も亦た之と同じき譯にて何如に大學を一つにし敎育を均うすとも男女は決して同一の性質を得べきにあらず然るに所謂る同權論者は全く此一事を忘れて過激の同權説をも唱うるに至りぬ然れども吾々は亦た進化論の道理に由つて決して此の意見には同意しがたし。左れば吾々より之を評すれば世話論者は現今の實際に泥みて則ち女子の地位を甚だ卑うするの誤りに陷り同權論者は空中の妄想に迷うて則ち女子の本分を過度にするの誤りに陷いりたり吾々は半ばは同權論者の議論と同じく今の女は敎育次第にて更らに發達すべしと信じ又た半ばは世話論者の意見と同じく女は到底感情に富み美術に長ずべきものありと信ぜり然し其の信ずる所以の根本は全く別途に在つて存するが故に發して之を實際の事柄に適用する時は莫大の相違を生じて到底右兩種の論者と半ばも同行しがたしと思ひ居れり。蓋し懷胎分娩の一事は其の關係を生理上心理上の雙方に及ぼし婦女子は永劫之が爲めに力弱く感情濃やかに愛念深く隨て美術の志想にも富み精密謹愼の心得にも長ずることと成るべし故に現今の日本の女子は現今よりも更らに男性に近よるべきは勿論なれども左ればとて到底男子と同樣とは相成るべからず之は何如に人間の工夫を以て同樣に爲さんとしても決して成るまじきものなれば則はち天下の大學に致せ政治界に致せ何の處ろにも自由に男女相並ん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て立出でしむべし男は必らず剛毅と為り女は必らず優美と為り男は必らず技藝に走り女は必らず美術を好むに至らん而して好し万一同じく政治界に立つことと成るとも男は軍務卿と為つて女は文務卿と為るべし同じく學問界に立ち而も同様の一科學を修るとしても男は自然に其理を研究し女は專ら之を適用するの任を取るに至らん故に吾々は女子は內を修むべきものなり女子は家を調ふべきもの也女子は感情に訴へ美術に入るの學藝を擇ぶべきもの也其德は優美其行儀は淑雅決して出過ることなく粗放に流るゝことなく能く細かき事に注意し亂暴の行に流れず愛に富み情に深く品行に清かるべきものなりと信じ又凡そ女子教育の精神は必らず此の如き原理を有すべきものと信ずと雖も之は一々比較的に申すことにして強ち其文字通りに固着して窮屈なる制御を置かんとするものにあらず例へば一村の庄屋の夫婦は其村中を治むるは夫の役目に屬し其の一家を治るは妻の擔任する所ろなるべし然るに此人若し大に立身して一縣一國を治ることあらば此時其國縣を支配するは夫の役目にして村を治るは妻の任と為ることもあるべし村と云へるものは之を一家に對すれば即はち外向の公けの場所なりと雖ども之を更らに大なる國縣に比すれば或は一種の家なりと認めらるゝの日なきにあらず此時に至れば內を守るの德依然として細君に屬して只だ其の內と云へる者に大小の相違を現はす必竟內外の論は夫妻の間に於て只だ比較的に申す所ろのものと成るべし現に日本にて云ふ家を修るとは四本柱の內に立籠つて碌々來客にも接せざると也西洋にて云ふ家を修るとは能く其一家を取締る上に來客を遇しらひ交際を滑らかにするを云ふことにて既に外部に向つて一段進み出でたり斯の如く世の開くるに隨つて內外の解釋に相違を生ずる如く彼の剛毅と優美、技藝と美術、情と智、愛と勇との如き事柄にも一々其の解釋を異にするに至らん即はち皆な比較的に申す所ろあるが故に一方の進退と共に亦た他方の進退すべきと甚はだ明白なり。左れば吾々社中の者は懐胎分娩の一事を以て古往今來男女間の大相違の根元と認め此の一事よりして生理上心理上に及ぼすべき影響を研究し此の影響を以て亦た古往今來女子に存すべき特別の性質ありと承知し此の性質に相應し此の性質を發達するに尤も利益ある方法を以て女子教育の主眼と為すことに候。斯樣申せば何も世上今日の議論と相違する所なきように思はれ候半か然し實際に

臨みて發し來る所ろの感想及び議論を考ふれば莫大の相違有之、吾々は今の日本の女性の智識力量に甚はだ乏しきを知れども之に由て毫末も之を卑うするの念ひあらず其の必らず後に大に進歩して或る限りに至る迄は殆んど男子と異る無きに至り而して之より先き男子が決して企て及ぶ可らざる別種の能力を得らるべしと信ず、故に亦た吾々は女子が高等教育を受るを賛成す之は同權論者の言ふが如く女子亦た男子と同樣に高等學を脩め得べしと信ずるが故にあらず即はち高等學中女性に適するの部分を脩め得べしと信ずるが故に候、吾々は即はち右樣の考へ方を以て女子の大學入校を賛成し女子の外務に奔走するとを賛成し又た或る場合に進みたる後は女子の投票權及び參政權をも賛成致すとに候。

斯樣に申たる所ろは胸中の只だ一部分のみにて之を只今ま十分に述べ聞ゆるを得ず但し吾々社中の信ずる所ろ大畧斯の如し故に此の主義を以て當今必要の女學社會に立ち出で之を萬づの女論に適用して少さか吾々の責任を盡さんと欲するとにて候。

主客玆に至つて共に各淸茶一椀を喫す。

論説

○品行論（其二）

加藤弘之　述

それで開けて來た國では、男が女を充分に壓制して、男ばかり權を專らにすると、云ふとは、必要で無いのみならず、惡いとで有が、ソコを通らなければ、社會の開化の第二の段落に進むと云ふとは出來ませぬ。半開の國では、妻だの妾だのを多く有つことを許して居るから、女の權利が立ッて居りませぬ。併しながら、ソコを通らなければ、本當の開化を得る譯には、行きませぬ。其れだから、日本と支那の如き開けた國では、男と女との關係が、モウ少し改まッて來なければ、仕方が有ませぬ。

併しながら、人の權利と云ふものは、與へやうとしても、出來るもので無い。西洋の歷史でも、政府が人民に權利を與へたと云ふのも、或ひは耶蘇敎の道理を奉じて、人民に權利を與へなければならぬと云ふことで、與へたと云ふことでも無い。或ひは、人民には權利と自由とを與へなければならぬと云ふので、ヤッたのでも無く、實際に權利を有たれることの力が出て、來て來たから、有つやうになッたので、モト政府が專らにして居た所ろが、人民が自由を得たり權利を得たりするとか、出來るやうに、なッたので、男と女との關係に至ッても、同じと

で、男が喜んで女に權利を與へると云ふことは無い。丁度、政府と人民との關係の如く、女の方に權利が無ければならない。
西洋でも、ギリシヤやローマでは、女は男の爲めに壓制されました。また、其の時分には妾と云ふやうなものや娼妓のやうな者があッて、學者なども貴んだと云ふ話しも有ります。
ギリシヤ、ローマでは前にも言ッた通り、女は男の爲めに壓制されましたけれども、アジヤの女ほどの壓制は受けなかッた。其の上に、エウロッパで、ゼルマン人種と云ふ北西の方の人種は昔から女に權利自由があッて一夫一婦が行はれて居りました(アジヤなどとはヨホドの違ひ)其れでゼルマン人種は他の人種に比べると、氣力が强かッたから、女も男に對して權利を張ることが出來、人民も政府に對して、權利を張ると云ふことが出來ました。また他の國のやうに、壓制を受けると云ふやうなことも、有りませぬでした。さう云ふ鹽梅であッたから、婦人も男子に對して權利を張ると云ふ氣力を有ッて居ッたので有りませう。其の上に耶蘇敎と云ふものがあッて、一夫一婦を主張して、婦人の權利を助けて來たから、隨ッて女を壓制することが減じて來ました、其の上に中古のエウロッパの封建のときの武士が女を尊敬すると云ふことが流行ッて來ました。其の時分には强い者は弱い者を助けなければならぬ、女は弱いから助けなければならぬと云ふことが、武士の間に行はれました。其れより、女にも權力がついて來ました。併し、其の本はアジヤ邊のやうに女が唯々諾々とする風は以前から薄かッたやうで有ります。
其の上に、千七百年の末に至ッて、フランスの亂の頃から女の權利が盛んになッて、女が女權論を演說するやうになり、また漸次に女の敎育が進んで來ました。何にしろ、ドコの國でも女にソレダケの氣力が有るとか智識が有るとか云ふことが無れば、女に權利を取ると云ふことは出來ませぬ。男の方でばかり自分の權力を女に與へて、俄かに一夫一婦の制度に改めると云ても、イケナイのは當然のことで有りまする。併しながら、さういふ風に自然に任して置いて、女の權力が出るまで與るには及ない、ドンナ有樣であッてもよいと云ことは、今日の日本の男子では、言ことが出來まいと思はれます。今日の日本の男子で少し志の有る男子は、何でも西洋流で無ればならない、政府から又人民から何事でも、西洋の開化を取と云ことをして、たゞヒトリ男女の關係に至ッて日本の古い風俗で置うと云ふことは、ドウしても理屈が立ちませぬ。其れは女に智識が出來

なければ本當には行かぬのは當り前で有るが、男の方でイクヲか氣を付なければなりませぬ。また、さういふ風に開化が矛盾して行くべき道理は有りませぬ。ドウしても男から女に對するところの待遇をみづから改めて行く考へが無ればなりませぬ。これから追々と女の教育が出來て西洋の有様も知って來るから、女の方からも言ひましよが、男の方では一日も早く今までの弊を改めて、行なければなりませぬ。さうで無いと、平常言ッて居る主義と反對になりませう。モウ二年ほど立てば、國會も出來、また法律も改められるのに、男女の有様がモトのまゝでは、西洋人から見てヲカシイに違ひありませぬ。人民が政府に向ッて權利を主張しながら、ヒトリ女に限ッて自分の勝手に壓制して居らうと云ふ道理は立ちますまい。

一體、自分の權利を主張するのは宜しいことで有るが、其れならば、女の權利も立てることを考へなければなりませぬ。自分で、權利のことをヤカマシク言ッて居ながら、女に對しては權力を振ッて居ると云ふことは、道理から言ッても實際から言ッても、ヲカシイに違ひ無ひ。さう云ふやうなことでは、西洋人に對して、實に外聞の惡い話しでは有りませぬか。今の有様で行けばまだ妾を蓄ふると云ふことも、恥でも無いやうで有るし、また藝妓だの娼妓だのに戯れると云ふことも、ソンナに恥で無いやうでありますが、カタッパウでは民法も國憲も西洋通りになり、カタッパウでは女を弄ぶことは百年も前と同じと云のは、道理に合はぬことで有ります。此まゝで行くと、政治上のことを妓樓で評議するとか、各縣から出て來る議員が東京にカコヒモノをするやうに、なるだらうと思はれるが、實に歎くべきことで有ります。ドウカ、政府に居る人でも、或は草莽に居て民權を張人でも、情欲を抑て、女との關係を正し、女に權力を與て、女を男の玩物にせぬやうにして、行なければ仕方が有ませぬ。(未完)

○女子の教育

宇川盛三郎述

左は去る廿一日大日本婦人教育會の發會席上に於て演述ありたるを社員が筆記したるものなり

伏見宮御息所殿下、貴婦人令孃、及び紳士諸君

只今ま面白ひ音樂のあつたる後に亦た色川さんの面白ひ且つお爲めになる御演説がありました、私も男子の一人でありますから此の會に向つて聊か御話しをするに付き成るべく賞め立てゝ呉れろと云ふ御注文があつた様で御座いましたが賞る程の價値がなければ賞めることは出來ません。

此の大日本婦人教育會と申すものは、御婦人に取ては無論、又

國に取てもよほど結構なもので有りますから、其理由を簡單に申し上げますが、先づ第一に男女の性質と云ふものは如何なるもので有るかと云ひますと、これは私も婦人になつたとハ御座いませんから、女子の方は請け合ふとは出來ませんが、女が何時出來て來たかと云ふとは、先達て人力車を飛ばせて彼處此處尋ねて行きましたところが女ハ斯う云ふ時に出來たのであるそうです、昔の昔のズット昔にアダムと云ふ人が有ッて其れから出來たと云ひますが、私は其の時に居りませんから、ドゥも委しいことハ分りません。此の頃或る先生が云ふに此のアダムと云ふ人が只一人有た所が是れではドゥも困ると云て今度ハ其の上にゴッドと云ふ神樣があッて、其人をつかまへて其の脇腹をボゥイトもいだものが女になり、殘ッたものが男になつたと云ふことで御座います。これで男女共に出來て、それから女子の性質を優しいと云ふことに定めたと云ふことで御座います。此の女子の優しいと云ふことは英語にてチヤーム、即ち優美と申します。此の脇腹より出來たと云ふのは脇腹の何處をドゥ云ふ風に取ッて出來たのか、測量は出來ませんけれども、何にしろ、一つのものより、男女共に出來たと云ふことには違ひありません。故に、歐羅巴で婚姻した婦人のとを其の良人よりはマイ、ハーフと云ひます。それは「私の半分である」と云ふことで、汝も私の半分である、半分と半分とを算術で彈けば、一となる。故に男女は共に一躰と爲つて生活するものであります。此の事をコンペニーと申します。

そこで男子の方は手荒いこと即ち剛壯と云ふ性質を持ち女子は優しい即ち優美と云ふ性質を持ッて居るものであります。女子の方は家事其他内に屬する事業を致し、男子は手荒き外の仕事を爲し、男女分業して一家を理め、隨ッて國を治むると云ふ樣になつたので御座います。其れから其の先ハドゥなるかと云ふに、ドゥあるか當てゝ御覽あそバせ……。鳥居さんの音樂の演説にも云ハれた通り、人間ハ生れる時分にチヤヤーと云て生れる、是れは唱歌に適て居ります。此の唱歌に對してまた對句とある處の唱歌が無ければならん。それハズット仕舞になればグゥーと云て死ぬ。是がチヤーに對するの對句であります。以上ハ婦人の一代記で御座います。其れで現在の有樣はドゥかと云ふに男尊女卑である。此の男尊女卑と云ふとを事實に徵して見れバ例へバ三從と云ふことがあつて、家に在つては父母に從ひ、其れから嫁すれば夫に

從ひ、歳を取ッたならば子に從ふと云ふ、年中從ッて居なければあらんので、父母に從ッて居ると云ふことは宜しいが、一旦嫁せば何でもかでも、夫の意に從わあければならん、と云ふことにあつて居る英語のユー、アール、イン、リーヴンで是れ御無理でも御尤もと云ふので御座ります、老てハ子に從ふと云ふが、是れも子に理があるあらば宜いが、親の方に理があるならば從わあいでも宜しい。其で斯くの如き有樣で、婦人には權理と云ふものが少しもあい。是も先程申し上ました通り此の間、人力車にて方〻あるいて承わッた所が、前にも申したる如くアダム。イーブと云ふ二人の御方があつてドゥ間違ッたか兩方とも喰ひ心棒であつて何か喰たけれど其の時分にハ何も喰べるものが無いと見へて木の實を取ッて御婦人が召あがつた所がアダムも是れハ宜しからう拙者も一ッ御相伴致さうと云ふので、また菓物を取て喰べられた所が神樣が御怒りにあつて、誰が始めたかと云ふに御婦人の方が始めたと云ふ。だから此の罰が當ッて今だに婦人ハ男子に壓制せられて居るとのことで御座います。

其れから離婚と云ふことであるが、是ハ婚姻したとが、くだけると云ふとで明治十九年中に婚姻したものが三十一万五千三百十一人で、其内で離婚した者が十一万七千九百六十四人でチョット三分の一に當りますので、例へば私が戸長か何かのことをして居るとすれば百の婚姻があると、また三十七の離婚は必ず屆をして參るものとして置ても、宜い位であります。また女の子は女に屬し、男の子は男に屬するから、一旦夫婦となつて男兒女兒があれば、女子は婦人の方に屬するもので、彼處に行くから途中で人を見てあれは昨日のオトッツァンであると云ふ樣あとが隨分あるものです。又女は三界に家なしと云此事は私は能存じませんが、また甚しきに至ッては細君に向ッて「我れ汝を養なふ故に汝ち何をも云ふ勿れ、宜しく沈默すべし」と云ふとがあります如此き男尊女卑の原因は何んでありませうか。

先づ躰育に就て考へて見ますると、婦人の躰力は如何にも弱いものである。男子は其の性質、剛壯あるものであるから、手荒い仕事をし、米を搗いたり、車を挽いたり、近頃東京の市中を歩るくと水を擔いて撒て居ます、男子は何をしても、手荒い事をするに極ッて居ます。女の方は手弱い仕事をすると云ッてからが、夫れに付いて男尊女卑の理を見出すことは出來ません。

また女でも中々エライ人がありまして、巴御前と云ふ非常に強い御方がある。其れから板額と云ふ人は門を毀したろうです。其時分の門は今日の如き西洋造りの門と違つて非常にシッカリとしたもので有りました。又フランスのジヤンダークの如きは英兵を追ひ拂つて勝利を得たこと是等は皆樣御存じのことで、また私が新潟地方を歩いた時分に、女が凡そ三斗五升許りも這入る位な藁袋に小石を入れて、其をドンドン擔いで運送して居つたのを見ました。故に女子と雖も手荒なことが出來ないと云ふ譯でありません。其からまた、さる所ろにゆけバ女が人力車を挽いて居ました。されば女も手荒いことが出來るに相違ない。男の方で見れバ鎭西八郎と云ふ人は、ドウかされまして、或る島にあり、或る日海の岸に在ッて幾里先きにある帆前船を沈ませたいと思ッたとき一矢にて其の帆前船を覆へしたと云ひます、是は今日の大砲よりもエライ力を持つて居られたものであります。此の間芝居に行て見ましたところが、坂田の金時と云ふものが有りまして、六七歳の時、或る老人と喧嘩をし、松の木を持ッて引ッ張りコをいたした處が、老人も强かッたと見え木が折れずして眞中から二ッに切れました。其れからまた武藏坊辨慶と云ふ人は背中にお姫さまをチヨイと入れて逃走して歩るいたと云ふ、斯の如き有樣で、男子の剛壯なると、女子の手弱いと云ふことヽしても其れを以て男尊女卑とするの理由を見出しません。

今度ハ道德の方で調べて見れバ、婦人の方ハ行狀の正しいもので道德の專賣とも云ふべきものであります。卽ち道德の問屋であります。外部から云ッても、婦人は德育の問屋であります。婦人が道德上に付て何事かあると世間がワイ／＼と云つて噪ぐ。故に德育の點に於てハ女子ハ尤も注意せんけれハならん。シテ見れバ男尊女卑と云ふことの理由ハ茲に於ても發見することは出來ません。若し道德の點に於いて、男女の尊卑を極める時には、女尊男卑と云なけれバありません。

今度ハ智育と云ふ點に於て調べて見ますと、智育ハ男女共に出來るかと云ふ問題でありますが、今日でハ最早出來ると云ふことは、定まつて居ります。而して男子の敎育と女子の敎育とは、只今の處でハ一所になつて居りません。其れはナせかと云ふよ、女子にハ敎育を與へずに居りまして、敎育を智識と云ふこととなつて居りまして、敎育あるものハ智者、敎育のないものは愚者。智者ハ怜悧なもので愚者は馬鹿なもの、智者の第一等を大先生と云ひ、其から下がつて中先生、

小先生、並の人をも先生と云ひます。其から用をさせる時分にあると「先生一寸水を一盃注で下さい」と云ひ、其から又烟草の吹殻が溜ると「先生之を掃除して下さい」と云ふ、是をハイフキ先生とも云います。其れから愚者と云ふ方にも、極く勝れたものを大愚と云ひ。それから中愚、小愚、お話しを變れば大馬鹿、中馬鹿、小馬鹿でありをす。此の馬鹿を指して小人と申します。從來「女子と小人は養ひがたし」と云いますが、素より小人は養なひがたひものであるが、女子は何う云ふ譯で、左樣極て居るかと云ふに、敎育が無いからして、女子と云へば小人と云ふとに極ッたものと見へまする。故に此の處に於て男尊女卑と云ふ原因か漸く見へてまいりました(未完)

叢話

○文人記者の伉儷

カアライル夫人は女流總躰に勸告して諸君ゆめ〱決して記者の妻と爲り玉ふ勿れと云へり夫人は初めカアライル氏と交を結びてより數度び文を往復して書中に相ひ議論を交え共に約して同一の古書を讀み其の考うる所ろを認め送つて互ひに見る所を批評されぬ斯て交ハること暫らくにあらず愛情深く熱して則ハち握手結婚の大禮を行れたるとあるに既に朝夕一室に居を同うしてよりは四目互ひに相見るのみ兩口語ばを交ゆると尠あくカアライルは書齋に閉居して夫人は獨り窓下に苦吟す當初の想像悉く當らずして理想の吾を苦しむると尋常ならず夫人則ハち同胞の姉妹に忠告して女子宜しく文人記者の妻と成る勿れとは怨まる。

抑も文人の願ひは書を著ハして眞理を明らかにせんとするに在り記者の望みは雜誌新聞を廣く散じて當世の用務を辨ぜんとするにあり其願望公明正大國の爲に盡すと淺からざるに獨り其家ハ常に斯る不幸の場とありて伉儷の間だ最上の和樂を得べからざる乎。ロードベーコン曰く凡そ最良の著作を爲し公衆の爲めに利益を起さんとには妻子の累ハしきありては不可ありとデクインシーはゴールドスミスを評して氏が文業に功績あるハ必竟妻子家族の厄介を免れたるか故なりと云へり學者果して妻あきを好しとする乎而して其實際を見るに彼のカアライル一家の如きもの甚ハだ少しとせず嗚呼文人記者遂に家族の樂しみを受くべからざる乎。

吾人竊かに此の不幸不平の因て起る所ろを察するに必竟是れ夫か讀書著作に繁忙にして終日ゆるやかに談笑快話するの暇

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

まなく細君空閨に一睡して偶と目を覺ませば良人尙ほ燈下に筆を執るの事情ありて事を爲す雙方各別思ひを寄する所彼此一樣ならず兩人の喜樂憂苦殆ど互に相違するに由るべしとは思はる左ればドライデン夫人の怨言に「我夫は深更二三時の頃まで床に入らず其好まるゝ所は只だ書物のみ妾は寧ろ其書物となつて切めて終始之と相見るを得ん」とあり又アインスウヲルス羅甸字彙の著作に餘念なく日夜他を顧ざりければ夫人之を怨みて不平の情に堪へず殆んどSの部に至るまで出來上りたる字彙の草稿を取て一抛之を火中に投入したりと云、何れも皆な良人の心悉く讀書著作の上に留まつて吾を顧みるの餘暇なきを怨むにあらん。

然りとれ云へ吾人は文人記者をして其の讀書著作を怠らしむるを望まず國の爲に成るべく其繁忙にして成るべく其業の大いならんヿを希ふが故に左らばかゝる種類の人々に限り到底快よく伉儷の樂を受くるヿを得まじきやと云ふに此に只だ一つの途ありもし之によらば夫妻和樂一家團欒の愉快を失はずして而かもよく其の文筆上の事業を畧するヿを要せじと思はる。（未完）

"I do perceive here a divided duty: here is my husband" Desdemona.

○和歌の德を實用したる佳話

むかし太田道灌は「みの一つだに」の一首に感發して之より歌を詠むヿを學ばれたり或る時定正に從ひて遠江の濱に至り直樣渡らんか否なとの評定定まらざりしとあり誰かある物見して汐の退きたるやを見屆け參れとあるに道灌承はつて馬を走らせたるが半途より引返して言上するは最早遠く退きて淺瀨と相成候夙く御渡りあれと申す定正公は爾ち彼處まで達せず何如にして之を知り候とあるに道灌

遠くなり近くなるみの濱千鳥鳴く音に汐の滿干をぞ知る

と申す古歌のありて候濱千鳥の鳴く音遙かに隔たりて聞えつれば左樣に承知仕ると申す人馬則ち走りて行くに果して其の如くなりき、又或る時河を渡らんとして何處か淺き深きを知らず其邊りに水案内するものもなければ皆諸供に困じ果てゝ道灌に相談あるに又た打吟じて申すようは

そこひなき淵やはさわぐ山川の淺き瀨にこそ空浪は立て

浪の立ち候ところぞ尤も淺かるべしと申して全軍難なく渡りけるヿなり。

細川幽齋はもと歌を好まず歌道は公家兒女のわざにして武士の好むものにあらずとて賞翫なかりしに或時敵を追はれける

に追捨にして後ろへ早や歸らんとせられしに側らに供しける侍らひ馬の口を押へて申けるは今少し追て御覽あれと云ふ幽齋曰く長路人馬勞れて追付事かたし早や程遠く成つらんと申されければかの侍申樣歌の心を以て考へ申候に

君はまだ遠くはゆかじ我袖の涙もいまだひへしはてねば

と云ふ古歌あり敵の乘捨てし馬を撫てみればいまだ温に候へば遠くは行まじと存候と申す幽齋面白しとて馬を引返し追れ候に間もなく追付て分捕高名して歸られしとぞ」此等の例し皆歌の德を實用したるものと云ふべし

○八十七年間英國女帽の變遷（其一）

西暦一千八百年より去年一千八百八十七年に至る凡そ八十七年間に於て英國に流行したる婦人の帽子の遷り變はりを圖し此頃の女王雜誌に掲げたり左に出せるは即ち其の半ばにして殘れるは之を次號に載すべし

第一、第二は千八百〇二年の頃のベルベット、ハット
第三は千八百〇四年の頃のスパニッシ、ストロウ、ハット
第四は千八百〇七年の頃の流行
第五は千八百十年の頃のリバンチン、ハット
第六は千八百十一年の頃のベルベット、ハット
第七は千八百十二年の頃の流行
第八は千八百十五年の頃アバトヂョウルと唱たるブリッセ、ハット
第九は千八百二十年の頃の流行
第十は千八百二十五年の頃のカブリヲレツト、ハット
第十一は千八百三十年の頃の流行
第十二は千八百三十二年の頃の流行

小説

○奔彪榮華の夢

"Last Days of Pompeii"

英國　笠頓先生　原著
日本　青笠小史　譯述

第二章　賣花娘（三）

虞朗加士、苦弄日亞士の兩人は頓て其處に佇立りて彼の盲目の小娘が花賣んとて唄ふ謠を聞くに

第一節

花買ひたまへ人々よ、遠き國より漂ひ來し、盲目の娘が賣るといふ、花買ひたまへ人々よ。

人が妾に告る程、今住む世界が美しからば、今賣る花が其の世界、オ、其の婀娜な母御前(世界)の、腹に產れし一人子の、愛娘にてやあらはん。

人々よ此花が、婀娜な母御の笑顔にも、似たか〳〵、さッても能う似て居るぞとは嬉しやあ。

左程に似たとナさるゝ、此の愛娘の初花は、彼の美はしき母の膝、眠りこけたる其隙に、悄と抱取りて來りしあり、然も一時今しがた。

斯な可愛ゆい娘を持た、母御の息は何ナで有ろぞ、ナニ空氣とや、扨もそよ〳〵なよ〳〵と、優しい息が吹て來

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Fashions in Hats from 1800 to 1887: — 1.

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

た、那の母御前は此息で、此の可愛ゆい娘の耳に、アレ何事か耳語くの、ナニ好い殿方に買れよと。

第二節

此の一人子を母御前は、如何にか愛し玉ひけん、可愛々々の涙の玉を、此兒の頬よや落しけん、其泣く涙は何故ぞ。愛着の念、煩悩の絆、切ても切れぬ親と子の、恩愛の苦みを樂みに、朝な夕なの慈育み、箇樣に成長くなりたるを、見てはいかでか泣ざらん、其泣く涙は愛ゆゑぞ。妾は見ねど人々は、母の涙や見たまふらん、襟に置く露や見るならん、露は夜る泣く涙なり、母御の愛てふ泉より、流れて落る涙なり、

第三節

羨まし人々は、光輝の世界にましくて、愛たき物の數々を、いつも眞晝と見玉ふらん、されど盲女は夜の家、入來る人出行く人、家に住む人は多けれど、聲のみありて骸は無し。

第四節

情け無き我身かな、下天の國の一人とて、不幸の流の岸邊に立ち、逝く水音と諸共に、光陰の過るを耳よ聞く、目無し鳥かやあはれ其の、水のうたかた越方も、斯てし有れば行末も、同じ闇にや迷ふらん。

ア丶見ま欲しや彼の人樣を、邂逅に聞く其聲を、知る邊にあはやと近寄れど、傍の看る目の羞耻かしく、竟立ち居れば行過る。

思ひに堪へで足音を、頻にすれと手まさぐり、責て上衣の移り香と、縋らんとすれば、情けなや、影なき音を捉ふるのみ、ア丶何とせん我身には、活たる人も亡靈と、同じ現世の影法師。

第五節

人々よ、妾が身を、哀れとは思さずや、我身哀れと思すなら、先づ此花より救ひて給べ、妾より猶此花が、身上哀れに侍るぞや。

花は我身を卿ちたり、花は妾を怨みたり、我身(花)は優しき日の光に、おなし立られたるものを、むくつけき夜の子(盲目を云ふ)の、手に觸られなば散果ん。

我身(花)の色香愛で玉ふ、殿御はいづこに在ますぞ、我身の色香は夜の子の、サア悉皆見へぬ闇の夜の、目には餘りに華麗じやもの。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

晝の御目の戀しさよ。

箇樣に花は歎くなり、箇樣に花ハ喞つなり、喞つを哀れと思しなば、買取り玉へ人〻。

「予ハ菫花の一房を買ん、此の可愛き尼日亞（盲女の名）の手より、」と虞朗加士ハ言ひながら隱袋より小さき貨幣を手一抔攫み出しつゝ彼の娘が携へたる籃の中にハラ〱と入れ　虞「コリヤ其許の聲は毎もより猶美事で有たの、」と云ふ聲を聞たる彼の盲目娘ハ知らず覺えず前の方へ二足ほど進み出でしが急に心附たる有樣にて其歩みを止めぬされど如何なる感情を其心中に持たるにや花籃を懸たる肱ハ震へ樂器を支たる手ハ戰き臉にハぱッと楓葉して篏なる薔薇と其紅色を爭へり　尼「オヽ貴郎ハ虞朗加士樣何時マアお歸りに成ました（傾向たる首を少しく擡げて恥かし氣に莞爾笑み低き聲にて物言掛たる眼こそ見えぬ誠に可愛き小娘なり）虞「四五日前に戻ッたがイヤ僅少の留守の間に庭の花壇が散〻に成て其許の手を借らんければ何とも仕樣が無なッた、何じや明日來られやうかの、ソレに宅の花環ハ此の可愛い尼日亞の手で無ければ甘く往ぬよ。」尼日亞ハ此を聞て嬉し氣に打笑たるが別に答へず。虞朗加士ハ擇取たる菫花の一房を胸に挿しつゝ愉快げに且つ無頓着に此の群集より離れたり。

○白蓮談

第三回　吉田魁と鈴木彌正

月の舍しのぶ

英和學校の教師吉田魁は學深くして才氣煥發し溫厚にして且つ義氣に富めり其業を執る甚だ活潑なれども物を案ずると尤も綿密にして容易に動かず只だ一旦動かば必ず爲の氣象を備へ斷行勇進顧慮せざるの風あり今日しも授業の後ち田中と云へる書生より其妹の事を聞及んで慨歎の思ひを禁ずるあたハず獨り其書室内に沈思默考したるが稍や久うして突然立上り彼の粗末なる洋服の上ハ衣を脫いで傍らに掛置たるフロックコートを着し小さなる鏡を引出より取出でゝ頸飾りを直し古びたる引廻しを纏うて薄やかなる手袋を穿ち堂々として出で行たり、元來彼の田中と云へる書生の父は名を古學と號し文章を以て可成りに聞えたるものなれば吉田魁も一二應は面談したるとあり特に嘗てハ其家にて催うしたる詩會に出席して會後の晩餐を食し酒を強られて醉に堪へず斗らず小庭の内を逍遙したる砌り當家の娘兒が北窓の下に英書を一心に講讀するを見て思はず近よりて窺ひたるが彼れ數度び字書に就て一字一句を覓め別に認めたる備妄錄に照らして譯讀を試むるな

ど其熱心面てに形はれて頼母し氣なるを認め其後事の序でに彼女が學問に執着して父の許を得がたきに困む由なんどをも承知したれば平生の義氣熾んに起りて何如にもし彼が志を成させんと願ひつ扨ては今日殊更に思を決して田中氏を訪はんとて出で行くなりけり。

車を走らせて九段坂下に至れる比ろは太陽冬天を穿ちて饒かに温氣を下し所云る小春の長閑けさと相成たれば玆より下りて右方の公園地内に入り散亂として玉を吐く小池の傍りに散歩し暫らくは殆んど其の行く所ろを忘れたるが如く見えたり此時前面の茶亭に息い居たる一人の紳士此方を注視して静かに立出で

之れは吉田君、暫らく

聲に氣を付けて向うをキット眺め眼鏡の下に眼を細うして漸やくに思ひ當り少しく笑ひを含みて

ヲヽ、鈴木君ですか(と云ひ乍ら池の邊を廻り)先達てはお手紙を有がたう

イエ詰らん議論ですがあなたの批評を願ひたくて上ましたので時に何方へお出ですか

田中へ行うと思つて來たのですが君はあの後度々お出でになりますか

ハア時々は參ますが……今日は矢張集會でゝもありますか

吉田は何心なく其由を答へんとして偶と心付き冷淡なる返事を以て

イヤそうでも無いので少し用がありまして

とまぎらす、此時鈴木の兩眼一瞬轉してギロリと光を發したるが落付拂つて申よう

どうも田中さんは相變はらずの主舊論で驚きます此間だ斯文學會での演説を聞きましたがイヤ早や今日に至つて倚ほあの通り漢學者の腦髓は實に變はり惡くいと見へ升

どう云ふ演説でしたか

先づ當今の開化を散々に惡口した上で特に女子教育の社會に害あることを論せられたので先生の考へでは矢張り三從七去の教へが無理でないと云ふのです

ハヽヽヽヽ

然し議論丈けならバ兎も角實際に其主義を行なつて行かるるのであの内の娘さんなどは尤も氣の毒なことです何でも余程學問に熱心の質だそうなが英學などは必要でない最早嫁入の年にも近いから只だ家を修るの心得方を習らへ

と云つて居らるゝとか云ふが實に可愛さうなもので實は吾輩ハ今日其事で行くつもりでどうも田中から段々聞くと何如にも今日そのような束縛をする筈は無いと思うし特にあの連中の考えを改めさするのは他の漢學家を導く爲めに隨分効能があると考へたから一とつ説いて見ようと思ひました

そうですか然し中々頑固だから容易には分るまい私も丁度今日あたり行つて見ようと思つて居ましたので同行しませうか

それは好い都合ですが吾輩は一寸つと其の中坂の上の所ろへ寄りますから君どうかお先きへ

それでは何れあちらで

それでは、失敬

彼の如きお上手ものと同行しては十分の議論は出來ず寧しろ煩はしきものに出で合ひしことよと後悔し乍ら坂を上りて右に折れ左る知れる家を訪ひぬ。鈴木彈正は獨り公園内に殘り尚ほ優々として池の周圍を廻はり居たるが暫らくして傍らなる古柳の幹に寄りかゝり遙かに九段坂の燈台を眺めて冷笑したり。

佳傳

○マダム、イツサベスの傳（其二）　長谷川峯子

二百年前の昔には住みし人もありけりと聞くトイレビースの都は草深く最と荒れはてゝ物の憐の集れる秋の夕の月影を破るゝ板間に漏らしつゝ座ろに人の感情を引起さしむる其内に昨日の富は何處にか王の家族は百歎の古き軒端をしのぶとも今果た何の効かあるべき引裂くばかりの悲みを態と隱くして若子達に幸らしき住家ぞと例の如く地理書歴史を取出し知らぬ顔して讀み聞かす心の中に浮ぶらん過ぎ越し方の感慨ぞ遠近に聞ゆ改革黨の一つぶし彌よ恨を増すが如し然れどイツサベスの勇氣は只だ此如きを以て減ずべきにあらず日々に窓掛何にくれと家事を調へつゝ未だ來ん方を神に任せ安んじて過ごされたり然れど一つの患とすべきは兄たる王が唯堪忍の力に富みて決行の力に乏しく優柔不斷なるとにてありき。

元來女王は墺利亞の人にして佛蘭西の情勢に暗く時に或は過ちあることありされば彼れ獨りごちして云へるよう王が王たるべきの資格あれかしなどて彼等は同じ人なるに遁るべき道も隱れ家も賢しき手術に疎きぞや、と是は扨ておき拙くも或日の夕暮れひそやかに王の家族は謫所をば脱れ出でんと企て

たりされど番卒の爲めに見出され以前にまさる虐遇に再ひ禁錮せられたり是れも始めイリサベスの諫めを聞かざりし決果なりされどイリサベスは敢へてそれ見よがしの世人と違ひ反て王及女王等の不幸を憫れみ勞はりて力のあらん限り慰めつ若し已れ獨の安きを求めば容易く逃る道あるも如何でか兄の艱苦を打捨つるの心あるべきぞ我が身は神が定め給いし方向を守りて進むものなり常にキリストが十字架上に忍ひ給ひし堪忍を與へ給へと祈りつゝ今日よ明日よと送る中に改革黨は時待顔に跋扈してルイ王も今は誰れとて陛下ぞと尊ぶものゝあればこそ位も權威も水の泡と消へ去りけりイリサベスハ是を見て轉た慨嘆に堪へず嗚呼我兄は最早自由を奪はれたり豈に自由のみならん惠みさへもと叫び出しける此一言以て當時の情勢を察するに堪へたり斯く不幸に不幸の重なりて今は早や改革黨は組を三手に分ちつゝ六千人の大勢以て一千七百九十二年六月二十日舘所なるトイレビースの都に攻め入りて恐れ多くもルイ王よ自由の帽子を被らせ彼等の勝手に作りにし律法の書付けを示しつゝ免せ免せと責め立つる其物音にイリザベス急ぎて兄を助けんと群集押分け驅け來る途中夫れと見るより若者は彼を女王と取ちがへ斬らんとせしを大胆にも氣を付けられよ悔ゆるなと云ひつゝ漸く王の側近く來りし折しも此騒動に驚かされて氣絶せしものありしが誰とて此人を助け起すものなかりしを見て急ぎ最と丁寧に介抱したりければ衆人ほと〳〵感じ入り狂ひ猛けれる暴人輩も彼が敵を愛する優さしき勇ましき心ばへには深く賞歎する顔色を呈せぬものはなかりしと云ふ。

斯る中此兵士等は一時圍を解き退きけるが又も犯し來りしは實に一千七百九十二年八月九日日は既に西山に影を隱せし頃ありき王家にては其騒動一方ならず忠義ある兵卒もて打かため誰れとて眠るものもなかりしがその中に或る武勇ある一人の老卒の云ひけるよう「陛下の命運實に旦夕に迫れり今は早や何んとせん議會の爲すがまゝに從ひて其の心に任せたまはんこそよかるべし」イリサベスはさらば汝能く帝と女王の身を全ふせしむるやと問ひかへせバ「マダムよ我は帝と共に死せんとを誓ふのみと勇さましく決然と答へたり嗚呼王は累卵の上に身を處するものと謂つべし遂に家族ハ憫れにも前にはバスチルの宮殿より今は又トイレビースの舘所より富貴安榮に見放され歩々艱難と毒刃の下にと進み行く有樣は譬へバ沖の方へと吹き流さるゝ破船の如し最早千尋の海の藻屑とあり

改革黨なる大魚の餌たるよりは他に詮術なかりけり斯る有様に王は彌増る憂の顔色青醒めつ女王は落ちくる涙を拭ぐひ驚ける太子を携へイリサベスは姫君を伴ひてさすがに深沈大膽の氣象は表に現らはれて最と靜かに各々牢屋を指して行く途すがら彼は靜に祈て曰く父よ彼等を許し給へ彼等は迷へる者の如く爲す所を知らざるなり我は彼等の罪せらるゝを好まず彼等の許されんとを望む父よ彼等を許し給へと嗚呼此祈や曾て基督が十字架上に父よ彼等は爲す所を知らざればなりと祈り給ひし恵の祈禱に等しきを得たるものならずや眞に彼は基督の愛を以て滿たされたるものと云ッべし遂に一家族は狹き牢屋に幽閉され忠義の僕は皆な敵の爲めに首刎ねられ今は只一人の從者のみ殘され居りしが不幸の山は彌重りて漸く敵の手を逃れしものも病に犯され臥にける。

● 寄書

○ 文苑

鈴木弘恭大人　撰

雪埋松　朝山と代子
ときはなる松さへ雪をいたゞきて君かやちよを祝ふなりけり

同　廣瀬壽惠子
常盤なるまつの花さくしら雪ハゆたけきとしのしるし成らむ

同　岡田仲子
ゆたかなるみよの光を添てけりふりうつめたる松の上のゆき

同　加藤やす子
梢ふく風しつまりて夜もすからまつをうつみしけさの雪かな

同　古宇田淑子
大君のめぐみやふかき九重のまつをうつむるけさりしらゆき

同　田口よし子
豐なるとしのみつきとふる雪に千とせの松もうつもれにけり

同　高橋ひさ子
おほ君の千代もやこゝにこもるらんつもるも高しまつの白雪

同　園池嘉壽子
豐年のしるしのゆきのふりうつむまつこそ千代の色ハ有けれ

同　土屋みね子
ふり積るほとへ嵐もうつもれておほうち山のまつのしつけさ

同　立花けい子
常磐なるまつハみ雪にうつめともうつまずきこゆ萬代のこゑ

同　土屋くに子
白雪にみにはの松ハうつめども千とせの色りしたにこもれる

● 宮中錄事

○歌御會始　去る十八日午前十時宮中に於て歌御會始を行ハせられたり　御製の御歌を左に掲げぬ

雪埋松

御製
うなはらハ緑にはれて濱松のこすゑさやかにふれる白雪

皇后宮御歌
ふる雪をしのぎてたてる松にこそ千年經ぬへきかけハみえけれ

○皇太后宮御誕辰　去る廿三日ハ皇太后宮御誕辰に付き午前十時より親王大臣其外宮内省高等官吏青山御所へ參賀せられたる由

● 新報

○大日本婦人教育會

小石川婦人教育談話會一變して東京婦人教育會と成り此度更に進化して大日本婦人教育會と爲る去廿一日發會の砌りは　伏見宮御息所別當花房夫人を從へて臨席あり皇族にして教育の事に御熱心を現ハせ玉ふ如此し有難しと云ふも恐多き儀也

○大日本婦人衛生會

之も亦た大日本の婦人衛生會去る廿二日大學講義室に於て演說會を催され榊維方の二氏講話さる目出度し〳〵

○大日本婦人教育會　同會ハ去る廿一日午後一時より一ッ橋外なる大學講義室に於て本年の發會を開き小鹿島ふて子（華族女學校教員）師岡伸子（同上）木村貞子（同上）水野峯子（東洋英和女學校教員）宇川盛三郎、色川國士、加藤弘之の諸氏の演說幷に女子の唱歌あり畢て辻新次氏ハ會員に代りて伏見宮御息所の御臨席を謝し

四時過る頃散會せり是日會員たる淑女并に招待に預りし淑女紳士の來會するもの五百數十名あり殊に伏見宮殿下の御息所には深かく本會を御賛成ありて同宮別當花房義質氏の夫人を從へ御臨塲遊されたり

○看護婦の志願者　東京慈惠院に於ては目下看護婦生徒募集中なるが其の志願者は從來の僅少なるに引替へ餘程多人數に登たるより願書を差し戻したる向もある位にて近日其試驗を行ふ都合なりと云ふ

○日本唱歌會　鳥井忱氏等の發起にて神田猿樂町二丁目九番地の尙黎學校內へ設ある同會の發會は都合ありて來二月に延會する由

○美術學校　東京美術學校の位置に付ては文部省にて種々協議中の趣なりしが今度高等女學校を帝國大學構內に新築して不日落成の上は直に移轉の都合なれば從來の同女學校を以て美術學校に充て追て上野公園地內四軒寺町同省用地即ち音樂所の隣に新築の筈なりと云ふ

○大日本美術協會の委員　上野公園內の同協會事務所に於ては實業者中より委員を撰任することになり既に第五部の委員だけは前號に揭げしが愈よ去る廿一日の定期總會議に於て左の通り撰任し總委員の主事に鹽田眞、大森惟中、坪井晋の諸氏を撰任せり

第一部（繪畫附書）山名貫義、狩野永悳、狩野探美、古筆了仲、田澤靜雲、黒川新三郎、瀧和亭、野口幽谷、村瀨玉田、滲井忠、會山幸彥○第二部（建築、園治）杉田幸五郎、川崎千虎○第三部（彫刻）朝日昇、長澤守敬、益田香遠、加納夏雄、大川貞幹、香川勝廣、德田多助、加納鐵哉、高村光雲、旭玉山、石川光明、金田萬次郎、片岡源次郎○第四部（陶磁、玻璨、七寶、金屬器）黒川眞賴（第五部委員兼）竹本隼太、宮川香山、若井兼三郎、濤川惣助、鈴木長吉、眞崎仁六、佐藤榮中、加藤恒○第五部（漆器、蒔繪、織物）黒川眞頼、古筆了悅、柴田是眞、小川松民、太田萬吉、齋藤政吉、齐谷總次郎、椎野正兵衛、山崎榮、西尾晋三郎、小林綾造

○美術協會の補助金　同會より此程府廳へ同會保存の爲め特別補助の儀を出願せしが今度府廳より金三百圓を下附せりと

○臍帶切斷法の改良　福岡縣に於ては從來產婆の臍帶を切斷するに竹箆或は貝の殼を用ひしが同縣產婆組合會に照論する所ありしが爲め現今に至りては老齡頑愚の產婆も亦た臍帶の切斷には必ず臍帶剪刀を用ふべきものなるとを悟り其購求方を郡衙に依賴し郡衙よりは縣廳の衞生課に依賴し衞生課よりは良好なる外科器械師に命じて之を製作せしめ其の品を締査して以て郡衙に下渡し而して產婆に交附することゝせり又剪刀の品格を上等次等下等に分ち上等は代價一圓二十錢次等は一圓下等は八十錢と定め以て產婆の購求に便ならしめたるに昨二十年中に交附したる剪刀の數は五百六十二挺にして其の代價は五百五十六圓四十錢なり（一月廿四日官報）

○女子部廢止　岐阜縣に於ては尋常師範學校中女子部を當分廢止せる由

●海外女事

○婦人特許の演說　近來の問題なる婦人に選擧權を許すすとに付き去る火曜即ち十一月十五日夜を以てサウスポルトの「ケュブリツヂ、ホール」（町會所の名也）にて演說會を開きしに聽衆滿塲なりき而して出席者はホウセツト夫人パーク夫人シャブルーク夫人及其他の淑女等なり主幹者は開會の始めに陳へて曰くサウスポルト市中の千五百名の各一家の夫人たる資格を有する婦人中壹千人許は既に此婦人特許の請願を賛成し其中に加入して調印せりと（ザ、クイン）

○婦人傳道會　カンテルベリーの大監督僧官の保護せられ且數多の著名なる男子等の事務委員の中に加り居らるゝ「婦人傳道會」にて去る二十九年間の働を公布せられたり此會は助なく友なき婦人等及此より猶ほ一層の悲境に陷れる女子を救助するを以て目的とせらるゝとなるが會員は倫敦市中に散在する十九人の婦人宣教師より成立ち而して此中二人の淑女等は專ら自殺を企てし爲め警察署に拘引せられたる不幸の女子等を助くるとを勉めらるゝ由なり今此會の働かれし所を聞くに暫時此會の保助に依て生活する者其數常に五拾人に下らず此會の助けに依りて其職業に就き生計を得し婦人は六千餘人、職業見習所に送られし婦人亦六千餘人、其親族友人に還附せられたるもの凡う二千人、外國に送られし者六十二人、結婚するとを得しもの七十四人、及其他猶ほ數多の功績は此會むべき淑女等の二十九年間苦心の效果なり（ザ、クイン）

○婦人職業同盟　競爭、移住及其他種々の原因より婦人勞力社會の賃錢著しく底落し殆んど饑渴に迫らしむるの有樣なるが之を救ふの術は唯た此職業同盟會を作り一定せる相當の價額を得るに非されば勞力せずとするより良策あらさるへし此社會の利得金の少なるの甚たしきに至ては殆んど奴隷に類する者ありワルターベサント夫人は熱心に此流の婦人を保護するとを勉められしが之に答ふる所の說を屢々見るに皆な不當を言語にして且つ此の如き同盟を作るも決して成功する能はず反て害毒を相互に蒙らするに過きず云々と言へり然れども是れ皆な己の利害より此同盟會の出來るを好まさる人々なり然れど此の如き同盟會は世間其數既に少とせず而して其中には平穩なる手段に依りて既に大に其功蹟を顯はせしものも多し今其一二の例を擧げんに、第一は婦人保護及共濟同盟にしてこは十二三年前の創設に係るものなり故パタルソン夫人在世中は大に此會の爲めに盡力せられたり其他著名にして有力なる數人の貴婦人及び僧敎師等（其名は略す）も此中に在り然れとも委員諸氏は尙ほ此義擧を賛成して加入する貴婦人等を求め居れり或婦人等は此會に加入するは此勞力者を使用する雇主等に反對するの地位なりとて之を恐るゝ者ありと雖も實際の經驗に因るに雇主と雖も賢明なる諸氏は敢て敵意を表せず委員諸氏と屢々相議するを好むものなり且つ元來政治上に職業同盟と言はゞ不穩の意味を其中に挾むの弊ありしも此同盟には決して然るとあらさるなり否な斯の如き香をも有せず全く經濟及慈善の主意を以て貫ぬくものなり　（未完）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

移轉廣告

今般肩書の地に移轉仕候間此段孱知諸君に廣告す

小石川區小石川柳町廿七番地
跡見花蹊

女生徒募集

本校儀從前の校舍狹隘なるを以て左の處に建築落成候に付新に寄宿生通學生の入學を許す有志の諸君速に申込あれ

小石川區小石川柳町廿七番地
私立 **跡見女學校**

細君の友 再版

低價金四拾錢 郵稅金拾四錢

此書ハ英國「ドイグ」夫人が子供のそだて方より下女下男のめしつかひ方に至るまで凡よそ細君の心得となるべき事物を親切に説き明したる良書にして且つ總ふりかなを付きあれバ誰れにても讀み得べきなり

○初版數千部ハ既に賣り切れ今般 **再版仕候**

明治廿一年一月
神田雉子町 **輿論社**

基督教新聞

第二百三十五號 明治廿一年一月廿五日發

目次●社説○青年信徒に一考を乞ふ●敎報○要報十數件●論説○靈魂を救ふの必要(完)●説敎○堅固及び勤勞(完)●雜録○志を立つると常に晩からず○集會の心得●雜報及廣告

毎週發行一册定價金三錢府外郵稅壹錢

發行所 東京京橋區日吉町二十番地 **警醒社**

通信講學會大擴張廣告

弊社の通信講學會が通信を以て諸學科を教授したるは實に新案創設の事業にして當時拮据經營の勞尠少ならず然れども之が爲め世人に裨益を與へたること亦著明なれば爾後僅々歳餘にして會員の數は二万人餘の多きに至りたり是實に豫期せざるの盛大を致したるものなり猶本年よりは一層社務を改良して益〻會員諸君の裨益を謀らんとす

●有志諸君は何時にても入會苦しからず課業書(即講義筆記)も其望に任かせ第一講より發送致すべし

●見本は從來都て謝絶して其需に應ぜざりしが今後は何學科に限らず一册に付郵券五錢御送附あれば直に遞送致すべし但毎科一册を限り卷號等も預め指定せらるゝ者を送達する能はず

●會則御入用の方は郵券二錢封入して申込まるべし

現今講義濟諸學科

●教育 十九册迄 ●教授法 十册まで ●倫理 一册 ●心理 十四册迄 ●論理 十一册迄 ●政治 九册まで ●法律 十三册迄 ●經濟 十一册迄 ●女子家政學 十一册迄 ●數理 十七册迄 ●生物 四册まで ●礦物 四册まで ●農學 二册まで ●英語 綴字三册 譯讀四册 會話四册

東京下谷區練塀町十四番地
敎育時論發行所 開發社內
通信講學會

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

●化學發明 實地有効 各種傳授廣告

がんがさを直す法 謝金 一圓
男女の別なく頭又は身躰にがんがさ出たるを容易に直す妙法

毛をはやす法 謝金 八十錢
男女の別なく頭はげ又ハ身躰にて毛のはへべき處に毛のはへざるとき容易に毛をはやす妙法

人體の色を白くする法 謝金 一圓
男女全躰の色を白くしつやを出だし美人となる奇法

白毛を黒毛に換ふる法 謝金 一圓
白毛を抜き其あとへ黒毛をはやす奇法

口中の臭氣を除く法 謝金 一圓
如何程口くさの人にても容易に其悪臭を除く良法

わきの下の臭氣を除く法 謝金 一圓
如何程わきがの人までも忽ち直る妙法なり

頭髪の縮みを直す法 謝金 一圓
頭髪の縮みを直す妙法及赤毛を黒くする奇法等を授く

右の各種ハ理化學の作用に依り本舎實驗の上其成効を確認し廣く世人に傳授する義なれバ勿論記載の謝金ハ全納して傳授すべき筈の處方今傳授云々の廣告をなし世人に不快を感せしむる者往々有之由に付き本舎ハ謝金の**半額**を前收して傳授秘錄を送呈し各位實地に付き其有効を試認の上殘り半額を領收するの規則と相定め候
●右の外本舎の傳授に係る百般の工藝技術傳授目錄規則書等ハ郵券二錢御送付次第速に進呈可致候

大阪谷町一丁目二十五番地 **國益舎主石原成軒** 敬白

發兌

一月。七日 十四日 廿一日 廿八日
二月。四日 十一日 十八日 廿五日
三月。三日 十日 十七日 廿四日 卅一日
四月。七日 十四日 廿一日 廿八日

定價

一册。五錢 郵税。一錢 (但府内無郵税)
十册。四十八錢郵税。十錢 (同前)
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行 一回 (廿七字詰) 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。
但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殿々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文春堂○横濱住吉町角田屋貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町既與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

發行所 本局 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

編輯兼發行人 巖本善治
印刷 森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY